様式２

平成25年度　自 己 評 価 表

鳥取県立皆生養護学校

中長期目標 （学校ビジョン）	学び、輝き、感動のある学校 幼児・児童・生徒が充実した学校生活を送り、個々の可能性を伸ばし、より良く生きることができるようにする学校 《 １８歳で自立できる人を育てる 》 ～将来を見とおした今のＱＯＬの向上～

今年度の 重点目標	○幼児・児童・生徒の特性に応じた指導の充実に努め、社会に繋がる教育を実践する。 ○特別支援教育の専門性を高め、指導力と授業力の向上を図る。 ○地域支援に努め、特別支援教育のセンター的機能を発揮する。

年度当初						評価結果（ 10 ）月		
評価項目		評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
一人一人に視点をあてた学習指導の充実	幼稚部	●一人一人の課題を明確にした保育や自立活動の指導が実施されているか。	●個に応じて学習の基盤となる力を育てることが必要であり、生活時程を見直した上で自立活動の時間を設定し、指導を行っている。	●一人一人のねらいに応じた保育や自立活動の指導や支援がなされている。	●チェックリスト等を活用しながら幼児一人一人の課題を整理する。 ●個に応じた教材・教具の工夫をする。	●一人一人の課題を整理し、個に応じた教材・教具を用いて指導を進めている。	C	●映像や記録も活用して評価、改善を行っていく。
	小学部	●児童の学びが適切に評価されて、次の学習に活かされているか。	●授業の構成や学習環境への配慮への評価は定着してきているが、児童が何をどのように学んでいるのかの評価が不十分である。	●児童の学びの評価を適切に行い、次の学習に活かしている。	●画像、動画を利用して授業者が自己評価を行ったり、グループで評価会を実施したりする。 ●授業者が画像、動画を撮りやすくする工夫をする。	●画像活用した児童の学びの評価は定着してきたが、撮影のしやすさや映像の活用方法に課題があった。	C	●児童の学びの評価のために、三脚を準備したり、児童の映像を見あう場面を設定したりする。
	中学部	●生徒一人一人の目標を明確にして発達や障がい特性に応じた適切な授業づくりができているか。	●映像記録による評価や目標設定はできつつあるが、発達や障がい特性に応じた授業づくり、連携図の活用、指導内容の系統性の検討については改善の余地がある。	●映像記録を効果的に活用して指導の評価を行い、的確な目標設定に活かす。連携図をもとに各授業のねらいを明確にし、発達や障がい特性に応じた授業づくりを行っている。	●連携図を作成・活用して、生徒の個別の目標達成を目指して具現化された各学習のねらいを共有して授業の質の向上に取り組む。	●映像記録の撮影・収集が適切にできるようになり、評価・目標設定に生かせるようになってきている。 ●全員の生徒について連携図が作成され、関わる教員全員でねらいを共有して授業実践が行われつつある。	C	●学期毎に目標を共通理解する会を持ち、連携図を活用しながら妥当性のあるねらいに基づいて授業づくりをする。
	高等部	●校内研究で取り組んだことが授業に活かされているか。	●学習連携図等を利用しながら、授業改善が進んできた。 ●研究の取り組みを学部内で広げて行く必要がある。	●どの生徒にも研究で取り組んだことが活かされ、授業改善が進んでいる。	●校内研究と関連づけて、個別の会や学習グループの会を定期的に実施する。 ●教科学習でアセスメントシートを作成する。	●全ての個別の会を開けなかったが連携図で指導やねらいの共通理解を図った。 ●アセスメントシートは作成済み、あるいは途中である。	C	●より多くの授業を公開することで普段の学習を見直す。 ●アセスメントシートを作成し、授業者支援会議を利用しながら授業改善を行う。
18歳の自立を見据えた進路指導の充実	幼稚部	●一人一人の実態をもとに進路指導計画を活用して日々の保育や就学指導を進めているか。	●日頃の保育の中で生活経験の広がりや人との関わりを意識してきた。その結果として小学部へのつながりができつつある。	●身につけたい力を明確にして小学部につないでいる。	●進路指導計画を活用し、個々の身につけたい力を明確にしていく。	●個々の実態と進路指導計画を照らし合わせ、ねらいをしぼって保育に取り組んでいるところである。	C	●学部会での実践報告も参考にし、個々のねらいに応じた支援の方法や保育内容を関わる教員で共通理解し、実践していく。
	小学部	●将来像をイメージし、その目標に必要な力を共有したり膨らませたりして指導にあたっているか。	●児童の将来像を意識した授業づくりや日常生活での働きかけが定着しつつある。	●将来像を意識して今必要となる力（身につけたい力）をふまえた指導が行われている。	●進路指導計画を活用し、個々の身につけたい力を明確にしていく。 ●学部会等を利用して、将来像を意識した指導実践の報告を行う。	●学部会で身につけたい力を語るようにしたことで、将来を意識した指導をしていこうとする意識が高まってきたが、進路指導計画の活用は十分ではなかった。	C	●将来像を意識した話し合いを継続するとともに、進路指導計画の具体的な使用方法について伝えあう場面を作っていく。
	中学部	●進路指導計画に基づいた授業づくりが行われているか。 ●各機関や保護者との連携を密にして、進路指導旬間の取組や施設見学等の実践を進めたか。	●１８歳の自立を目指すために中学部段階でつけたい力が明確になりつつある。進路指導旬間等の取組から見えてきた生徒のニーズを意識した指導が必要である。	●個別の指導計画に進路指導の課題が活かされ、進路指導旬間等で個のねらいに応じた指導が行われている。	●学部等で研修を持ち、キャリア教育の視点で生徒一人一人に将来に向けて伸ばしたい力について整理をする。	●夏季休業中に進路研修を実施し、生徒の卒後の生活に必要とされる力を見通して、後期進路指導旬間のねらいの設定や計画の立案を行っている。	C	●前期進路指導旬間等の取組から見えてきた将来必要とされる力を意識した授業づくりをする。 ●保護者や関係諸機関との連携を密にして話し合う機会を多く持ち、生徒の生活実態やニーズに応じた進路旬間の取組が行えるようにする。
	高等部	●卒業後を考え、つけたい力を明確にして授業がおこなわれているか。	●個について話し合う機会をもつことにより、共通理解を図りながら卒業後の生活を意識した授業がされてきた。 ●系統性を考えながら、つけたい力を整理する必要がある。	●学習していることが卒業後にどのように繋がっているのか明確に説明できる。	●キャリア教育の視点で学習活動の計画や年間指導計画を見直す。 ●関係機関や保護者と話し合える機会を多くもつようにする。 ●卒業後の進路に関する知識を深める。	●将来必要な力を身につけることを意識し、現場実習や授業を進めることができた。日常生活でもキャリア教育の視点を意識する必要がある。	C	●卒業後につけたい力を指導計画等に明記したり、授業とつけたい力の関係について説明できるようにする。
ニーズに対応できる専門性の向上	幼小学部	●皆生幼小版専門性チェックシートを作成する過程を通して、必要な専門性についての考えを深めていたか。	●多様な専門性が要求される中、専門性について何が必要なのかはっきりとした指針が、学部として持てていない。	●皆生幼小版専門性チェックシートを作成する過程を通して、必要な専門性についての考えを深めている。	●専門性向上委員会を学部内に立ちあげて、学部内で議論しながら幼小学部に必要な専門性についての考えが深まるようにする。	●学部研修の中で、専門性について取り上げることはあったが、専門性向上委員会を立ち上げ、積極的に推進することはできなかった。	D	●既存の会議を通して、学部版専門性チェックシートの検討や、活用の仕方についても話し合うようにする。
	中学部	●校内研究での取組や研修内容を日々の授業の中で各自実践することにより発達や障がい特性に応じた授業づくりに活かすことができたか。	●的確な実態把握に基づいた、ニーズに応じた指導が十分に行われているとは言えない。	●発達検査やチェックリストによる実態把握の結果を目標設定や課題設定等授業づくりに活かしている。	●研修等で新たに習得した専門的知識や技術を広げる機会を設定する。 ●授業改善に係る自己の研修課題を決めて、校内研究への取組を進めながらその達成に取り組んでいく。	●学部での研修が充実してきている。各々が校内外の研修に主体的に参加し、課題意識をもって実践にあたっている。	C	●支援機器等を活用して、授業の質の充実に取り組む。 ●自己の研修課題を意識しながら校内研究の取組を進める中で、実態に応じた目標設定や教材提示を行う。
	高等部	●客観的なデータを活用することができたか。	●チェックリストや中心課題の映像を撮ることで、焦点化された目標設定や学習内容の選定に繋がってきた。 ●客観的なデータを読みとる力を高めていく必要がある。	●指導者の実態把握の力が高まり、客観的なデータを示しながら授業が実施されている。	●映像やチェックリスト、アセスメントシート等を使い、話し合いや指導の評価を行う。 ●映像やチェックリストを使いケース研を実施する。	●客観的データをもとに指導を精選したり、授業実践を行ったりした。その反面、活用までに至っていない場合もある。	C	●授業の元となる客観的なデータを示すことができるようにする。 ●映像やチェックリストを使いケース研を実施する。

評価基準　A：十分達成　B：概ね達成　C：変化の兆し　D：まだ不十分　E：目標・方策の見直し
〔100%〕　〔80%程度〕　〔60%程度〕　〔40%程度〕　〔30%以下〕